

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 神経血管内治療科 劉 美憬

【研究責任者】

聖路加国際病院 神経血管内治療科 新見康成

脳血管撮影検査を行った方を対象とした

脳・脊髄血管解剖の理解に関する後ろ向き観察研究

1.研究の対象

2015年1月から2023年12月までに当院で頭部・脊髄画像診断（脳血管造影、脊髄造影、脳・脊髄MRI検査、脳・脊髄CT検査など）を施行した方を対象としています。

2.研究の目的・方法

脳卒中の原因の多くは、生活習慣病である高血圧、糖尿病、脂質異常症などを基盤に生じた血管病変や心病変に起因するものです。一方で、脳卒中の中には上記のような生活習慣病とは無関係な病変が存在し、脳血管病変、先天性心血管異常、血管の炎症などを基盤として生じる特殊なものがあります。その中で、脳・脊髄動静脈瘻や脳・脊髄血管奇形は稀な疾患群として知られています。これらのシャント疾患や血管奇形は、それぞれの患者さんごとに異なる血管構築を呈することが多く、患者さん毎の詳細な血管構築の検討が極めて重要です。また、血管構築の解明には、動脈や静脈を含めた正常血管解剖の理解が重要であり、そのバリエーションを知ることが極めて重要になってきます。

近年の画像診断装置の発達により、従来よりも詳細な画像評価が可能となっており、今まで評価できていなかった病変、解剖学的な比較評価、解剖学的な異常やバリエーションの検証が可能となりました。脳・脊髄神経構造や脳・脊髄血管の解剖学的理解は、シャント疾患群の臨床経過、疾病発生メカニズムの理解につながり、根本的治療法の確立にもつながっていくものと考えています。

そこで、本研究では、解剖学的な個体差の大きい脳・脊髄血管解剖、脳・脊髄神経構造を患者さんから得られた診断画像もとに後方視的に検討します。それにより、解剖学的な多様性の評価、バリエーションの有無、またシャント疾患の病態解明を目指し、臨床経過や治療法などに関する新たな知見を得ることを目指します。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）画像記録に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2025年3月までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 病歴、治療歴、診療画像、副作用等の発生状況、カルテ番号 等